

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「十訓抄「大江山」」問題

和泉式部、保昌が妻にて、丹後に^①下り^アけるほどに、京に歌合^②あり^イけるを、小式部内侍、歌詠みに^③とら^ウれて、歌を^④詠み^エけるに、定頼の中納言^⑤たはぶれて、小式部内侍、^オけるに、「丹後へ^⑦遣はし^カける人は^⑧参り^キたりや。いかに心もとなく^⑨思す^クらむ。」と^⑩言ひて、局の前を^⑪過ぎ^ケられ^コけるを、御簾より半らばかり^⑫出でて、わづかに直衣の袖を^⑬控^ヘて、大江山いくのの道の遠ければまだふみも^⑭見^サず天の橋立と^⑮詠みかけ^シけり。思はずに、あさましくて、「こはいかに、^⑯かかるやうやは^⑰ある。」とばかり^⑯言ひて、返歌にも^⑯及ば^スず、袖を^⑯引き放ちて、^⑯逃げ^セられ^ソけり。小式部、これより、歌詠みの世におぼえ^⑯出で来^タに^チけり。
これは^㉓うちまかせて理運のこと^ツなれども、かの卿の心には、これほどの歌、ただいま^㉔詠み出だす^テべしとは、^㉕知ら^トれ^ナざり^ニけるにや。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「十訓抄「大江山」」解答

和泉式部、保昌が妻にて、丹後に^①下り^アけるほどに、京に歌合^②あり^イけるを、小式部内侍、
 ラ四^用 ^{過去} ^{ラ四^用 ^{過去}} ^{マ四^用 ^{過去}} ^{ラ下二^用}
 歌詠みに^③とら^ウれて、歌を^④詠み^エけるに、定頼の中納言^⑤たはぶれて、小式部内侍^⑥あり
 ラ四^用 ^{受身} ^{過去} ^{マ四^用 ^{過去}} ^{ラ下二^用}
 過去 ^{ラ四^用 ^{過去}} ^{サ四^用 ^{過去}} ^{ラ四^用 ^{完了}} ^{ラ四^用 ^{過去}} ^{ラ四^用 ^{現在推量}} ^{ラ下二^用}
 オけるに、「丹後へ^⑦遣はし^カける人は^⑧参り^キたりや。いかに心もとなく^⑨思す^クらむ。」と^⑩言ひ
 ガ上二^用 ^{尊敬} ^{過去} ^{ダ下二^用} ^{マ上一^用 ^{打消}} ^{ハ下二^用}
 て、局の前を^⑪過ぎ^ケられ^コけるを、御簾より半らばかり^⑫出でて、わづかに直衣の袖を^⑬控^ヘて、
 カ下二^用 ^{過去} ^{マ上一^用 ^{打消}} ^{ハ下二^用}
 大江山いくのの道の遠ければまだふみも^⑭見^サず天の橋立
 ハ四^用 ^{過去} ^{ラ变^用} ^{ラ变^用} ^{ラ变^用} ^{ラ变^用}
 と^⑮詠みかけ^シけり。思はずに、あさましくて、「こはいかに、^⑯かかるやうやは^⑰ある。」と
 バ四^用 ^{打消} ^{タ四^用} ^{ガ下二^用 ^{尊敬}} ^{ハ下二^用}
 ばかり^⑮言ひて、返歌にも^⑯及ば^スず、袖を^⑰引き放ちて、^⑱逃げ^セられ^ソけり。小式部、
 カ变^用 ^{完了} ^{過去} ^{ラ变^用} ^{ラ变^用} ^{ラ变^用}
 これより、歌詠みの世におぼえ^⑲出で来^タに^チけり。
 サ下二^用 ^{断定} ^{ラ变^用} ^{ラ变^用} ^{ラ变^用}
 これは^⑳うちまかせて理運のこと^ツなれども、かの卿の心には、これほどの歌、ただいま
 サ四^終 ^{可能} ^{ラ四^用 ^{尊敬}} ^{打消} ^{過去} ^{ラ变^用} ^{ラ变^用}
 詠み出だす^㉑テ^ベしとは、^㉒知ら^トれ^ナざり^ニけるにや。
 ラ变^用 ^{過去} ^{ラ变^用} ^{ラ变^用} ^{ラ变^用} ^{ラ变^用}